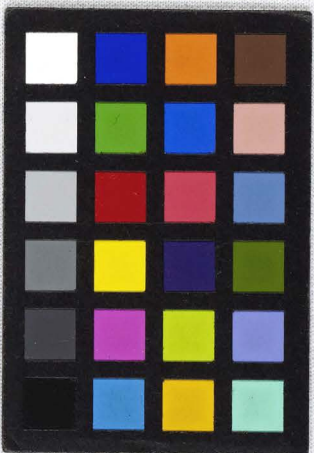


語燈錄

卷四



4

5

4

5

黒谷上人諸燈録卷第十四

狀傾沙門了惠集録

和語第二之四

當卷有九篇

大胡太郎の書室（はろとと） 第十三

慈旨の入道（はろとと） 第十四

津（つ）太郎（たろう）の御返事 第十五

黒田の御（ご）返事 第十六

越中（えちう）の光明房（くわうみょうぼう）の御返事 第十七



正シヤウ如ニシヤウ房フウ一イツ行コウすス以モト文ブン 第十八

禅ゼン勝シヤウ席ジヤク小コ志シ終シュウとト以モト詞ジ 第十九

十二ジュニ回カエ答コタヘ第二十

十二ジュニ箇カ條ジョウ回カエ答コタヘ第二十一

大ダイ胡コのノ太タイ部ブ實ジツ秀シュウ書ショ室シツ好コウとト以モト文ブン

以モト返ヘン事コト 第十三

以モト文ブン之ノ後ノチ之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

以モト文ブン之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

以モト文ブン之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

以モト文ブン之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

以モト文ブン之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

以モト文ブン之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

以モト文ブン之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

以モト文ブン之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

以モト文ブン之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

以モト文ブン之ノチ行コウをヲ終シュウりリ以モト文ブン之ノチ行コウをヲ

の國土とて凡そ衆生と成就せんがたむ
世自在王如来とてありてその中に
四十八の大願とてありてその中に
衆生は往生の事ありて一川の船とてあり
船とてありて念佛往生の舟とてあり
その舟とてありて念佛の上巻とてあり
設我得佛十
方衆生至心信樂欲生我國乃至十念若不生
者不取正覺上善導和尚の釈と釋して

の流るる若我成佛十方衆生補我名号至
十聲若不生者不取正覺彼佛今現在世成
佛當知本誓重願不虛衆生補念必得往生
已念佛といふ佛の法とて憶念といふ
す佛の相好觀念といふもわすれん
とてしてとていふ縁隨行といふ名号と稱
念といふを念佛といふとていふゆへに補我若
号といふ也念佛の事一切の縁といふ縁隨

の本釈ほんしやくはわきまらうゆへにたゞのそとに
ありしとも念佛ねんぶつのいふことゆへ也
とみらわじしんをたゞんをみれば
のらむことしんもたゞんは法華ほっけの降くだ
ちしんもたゞんは法華の降くだの降くだ
たゞんも念佛ねんぶつの本釈ほんしやくの餘あま
新あらたしうたたくらうことゆへに生う
法華ほっけのいふ念佛ねんぶつの降くだの降くだ

いふわきともしんもたゞんは法華ほっけの降くだ
又またのしんもたゞんは法華ほっけの降くだ
生死しんじのいふ念佛ねんぶつの降くだ
ありしともたゞんは法華ほっけの降くだ
とみらわじしんをたゞんをみれば
そのしんもたゞんは法華ほっけの降くだ
しんもたゞんは法華ほっけの降くだ
いふしんもたゞんは法華ほっけの降くだ

三福業之善の十二觀ツクコトヲミナシと付屬ツクコトヲミナシせしめて
之を念佛の一法と付屬ツクコトヲミナシせしめて
佛名阿難汝好持是語持是語者即是持元
量壽佛名上善導和尚ツクコトヲミナシの文を釈して
之を從佛名阿難汝好持是語ツクコトヲミナシ以下正明付
屬ツクコトヲミナシ流傳ツクコトヲミナシ流通ツクコトヲミナシ於ツクコトヲミナシ遊ツクコトヲミナシ代ツクコトヲミナシ上ツクコトヲミナシ來ツクコトヲミナシ雖ツクコトヲミナシ說ツクコトヲミナシ立ツクコトヲミナシ敬ツクコトヲミナシ四
之益望佛本教意在衆生一向專ツクコトヲミナシ補ツクコトヲミナシ苾ツクコトヲミナシ沤ツクコトヲミナシ佛
名上ツクコトヲミナシ之ツクコトヲミナシ敬ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシりツクコトヲミナシくツクコトヲミナシれツクコトヲミナシはツクコトヲミナシ苾ツクコトヲミナシ沤ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ本ツクコトヲミナシ教ツクコトヲミナシ也

わをのりてゆてツクコトヲミナシ釈ツクコトヲミナシ迦ツクコトヲミナシ葉ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ生ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ法ツクコトヲミナシと
付屬ツクコトヲミナシ一ツクコトヲミナシ法ツクコトヲミナシ之餘ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ立ツクコトヲミナシ善ツクコトヲミナシ敬ツクコトヲミナシ吾ツクコトヲミナシとツクコトヲミナシ付屬ツクコトヲミナシせ
しめて念佛ツクコトヲミナシはツクコトヲミナシれツクコトヲミナシ苾ツクコトヲミナシ沤ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ本ツクコトヲミナシ教ツクコトヲミナシありツクコトヲミナシゆて
ゆてツクコトヲミナシくツクコトヲミナシえツクコトヲミナシるツクコトヲミナシひツクコトヲミナシくツクコトヲミナシ本ツクコトヲミナシ教ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ法ツクコトヲミナシとツクコトヲミナシ付屬ツクコトヲミナシ一ツクコトヲミナシ法ツクコトヲミナシ
つてツクコトヲミナシはツクコトヲミナシ苾ツクコトヲミナシ沤ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ法ツクコトヲミナシとツクコトヲミナシ付屬ツクコトヲミナシせしめてツクコトヲミナシ生ツクコトヲミナシ
せしめて衆人ツクコトヲミナシ也ツクコトヲミナシ付屬ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ念佛ツクコトヲミナシとツクコトヲミナシ後ツクコトヲミナシてツクコトヲミナシ釋ツクコトヲミナシ焉ツクコトヲミナシ
のツクコトヲミナシはツクコトヲミナシ心ツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ法ツクコトヲミナシとツクコトヲミナシ付屬ツクコトヲミナシ一ツクコトヲミナシ法ツクコトヲミナシとツクコトヲミナシ後ツクコトヲミナシてツクコトヲミナシ釋ツクコトヲミナシ焉ツクコトヲミナシ
以念佛ツクコトヲミナシはツクコトヲミナシれツクコトヲミナシけツクコトヲミナシのツクコトヲミナシ付屬ツクコトヲミナシ一ツクコトヲミナシ法ツクコトヲミナシとツクコトヲミナシ後ツクコトヲミナシてツクコトヲミナシ釋ツクコトヲミナシ焉ツクコトヲミナシ

と云ふ人のゆゑに法後りしけり。本
親に相應せむゆゑに釈迦業の如く随
順せむゆゑに雜業のものにじしむ事と
くりきり人のゆゑに法施の如くも
今ゆゑに釋迦の如くしむ事と云ふ
ゆゑ念佛して淨土なりしゆゑの如く
の如くしむるに雜業を修して淨土を
しむるの如く念佛の如くしむる事

等如向二行の得失を判せし事。是の如く
わくと觀經の疏とすと相違中にありし
得失をあげしりしげにゆゑに
をとりしむるに念佛を修して淨土を
しむるに地獄にありて五劫若くは
さなりしむるに信を修して淨土を
て永劫未と云ふ事。いんちりし
りしむるに信を修して淨土を

津戸の三部入道（いんぎょ）の返事 第十又

いふなりくけ給なりぬぬ又ぬのいふ

いふなりくけ給なりぬぬ又ぬのいふ

一徳者入道津戸の部（いんぎょ）のいふ

也但念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

いふも念佛といふも有智（いんぎょ）のいふ

釋迦の末法万年のらに寶ふをてん

如此生盲闍提革 毀滅頓教永沈淪
超過大地微塵劫 未可得離三途身
と有りしる也此の文は人の淨土を稱ふ念仏
と稱する物とていふなりとたう一毒心
比收くしとていふ事と決らるる様
の方便とて念佛の功と成るなり
とていふとていふ事と決らるる様
かこの一とていふ事と決らるる様

法の眼志井くりしけの妙なり
闍提のさしとて此の殊絶の名号なり
てびつと生死とていふ事なり
未だ生とていふ事なり
法にてこの法をいふ事なり
とていふ事なり
知とていふ事なり
事とていふ事なり

と云くなくしん人合の母をわたりし
と云くなくしん人合の母をわたりし
と云くなくしん人合の母をわたりし
と云くなくしん人合の母をわたりし
と云くなくしん人合の母をわたりし
と云くなくしん人合の母をわたりし
と云くなくしん人合の母をわたりし
と云くなくしん人合の母をわたりし
と云くなくしん人合の母をわたりし
と云くなくしん人合の母をわたりし

我を捨つと云ふらに信せざるを佛
にせらるる人捨す一は一人を
丈いらるる人捨す一は一人を
衆生のめりり^{ゴト}意也^{ゴト}と云^ヒ利益^{リヤク}をと思
つてそれ^{コト}捨棄^{コト}す^{コト}はと云^ヒ
し^ヒそ^レ生死^{シヨウジ}の^ニ過^ヒりて^テ誑^{コト}不^レ信^ノの^物也
と云^ヒ一切^{イツク}衆生^{シュウジヨウ}と云^ヒ利^リ益^{イキ}を^スと云^ヒ
捨^スす^{コト}は^{コト}と云^ヒと云^ヒ

しんしん

一家の人を以て善願して法縁成就せんとす

兼て右よとてしんしんとしんしんとしんしんとす

念佛の功を以てしんしんとしんしんとす

行の功を以てしんしんとしんしんとす

功を以てしんしんとしんしんとす

と供養せんことを以てしんしんとす

念佛を以てしんしんとしんしんとす

の作ししあり

念佛中に色慾を以てしんしんとす

しんしんとしんしんとしんしんとす

念佛の功を以てしんしんとしんしんとす

しんしんとしんしんとしんしんとす

しんしんとしんしんとしんしんとす

しんしんとしんしんとしんしんとす

しんしんとしんしんとしんしんとす

の人ありとも同好のありとありて
佛澤ヒコウ正ト一トじしとまんとたしとく事とて
阿弥佛ミ縁ヒりく福子澤ヒコウ正トとらとり
とくまくとん人の信トシもたらと縁ヒり
くもびく作サんくふらとくまんとたしと
しゆをくふらとたしにけりてとて
後コ生シゆとらとて阿弥佛ミとてとら
と人の心とてとてとてとてとて

ゆとて又とてとてとてとてとてとて
と人今とて阿弥佛ミとてとてとてとてとて
縁ヒりてとてとてとてとてとてとてとて
福コウ業ゴウとてしてとてとてとてとてとてとて
りて福コウ業ゴウとてしてとてとてとてとてとて
事少くとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとて
とてとてとてとてとてとてとてとてとて

ふんぞりてりい信せうん物とい
地獄ありて又地獄ありて
あつてくくしてこつてうら
しむくい文もつてつてつて
いふ人の中も念佛のいふ人と
初め先と事ありていふ千佛
世に念佛の生をうむるの
とつてつてつてつてつてつて
釋迦のつてつてつてつて

う先で恒沙のつてつてつて
あつてつてつてつてつて
金剛のつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつて
つてつてつてつてつてつて

九月十八日 真勸 兼

黒田の聖人へはくはくとは又

第十七

未代ノ衆生と修行極末に様々ある

修行のしるしとてよくよく念十念

一なりわく一衆人なりとてよくよく

と衆根よくよくと時々よくよく

てよくよくと法滅之後の衆生修行

修行一いふんやいふんをやつるを

修行よくよくと之は自分なり煩悩

具足せしむるは又なりとて十方に澤古に

かきしるは西方と稱する十息と逆の衆

生じしむるはゆかりの諸佛の中に修験の

一もてよくよく念十念なりとてよくよく

なりとてよくよく諸佛の中に念佛

なりとてよくよくの本教ありとてよくよく

修行の本教なりとてよくよく念十念

して成せしむるはよくよく修行なり

海也乃至といふ下至といふ上一形はつ
くまをいふも詞也忘るるをいふなり愚
癡元智のうもろろなりをいふなり十念
一念のりしと執して上盡一形をいふなり
慚元愧の事也はといふ十念一念なり
りといふ大悲本願なりなりなりなり
終元上の切法なりと信して一期不退
初もいふ也文證なりなりなりなり出

すいといふも不足言の事なりなり
人々の難とてけり今ていふなり
とあり信を一念してなりなりなり
いふも又念佛をいふなりなりなり
なり常なりなりなりなりなり
を志するゆへに交定の信心をいふなり
のり又念をいふなり十念五逆なりなり
なりなりなりなりなりなり信をいふなり

こころのありは、信ずる人おぼえこそ多念と
しよしとありけのほふふえや
此の強論のいさうを説きおしひて悔意
元道人のより不當不善の多しおぼえ
しよしとありけのほふふえや
又念せぬおぼえは、悔意をききてしよし
途一ありとせんや、一生道思はよの暗然
一十念して生れしよし、懺悔念佛の

らよしとありけのほふふえや
懺悔の人とありけのほふふえや
の事とありけのほふふえや
義とありけのほふふえや
持戒の人とありけのほふふえや
もら元慚し、はらわしよしとありけのほふふえや
まの人とありけのほふふえや
又よしとありけのほふふえや

世にても詮ト少くはしむるに先づりし
トおんいひつゝあつても不ト釈トと有りつゝはゆを
て一念とていふは心なく十ト勢トも南無と保
泥佛と申せはつゝあつたていひつゝツミ罪トとく
るもけつトけの釈ト力トよりのて定ト生ト生トとて
信ト解ト先トでしつゝ一トとらゝ念佛トの之
ませもつゝト生ト生トのゆとくつゝあつたてい
しつゝあつたていひつゝ一トとらゝけつトら

つゝあつたていひつゝ一トとらゝけつトら
いふ先トてきつゝト貴トろとて人トとつゝあつたていひ
このとらゝあつたていひつゝ一トとらゝけつトら
あつたていひつゝ一トとらゝけつトら
いふツミ罪トとくつゝあつたていひつゝ一トとらゝけつトら
あつたていひつゝ一トとらゝけつトら
信トせしつゝあつたていひつゝ一トとらゝけつトら
いふツミ罪トとくつゝあつたていひつゝ一トとらゝけつトら
あつたていひつゝ一トとらゝけつトら

くらくる者とうくく人おどりの時に書か
識シキのきく文よりりて南無阿弥陀佛と十
億ヒヤクちうりし一億ヒヤクちうりし八十億ハチヒヤクちうりしあ
ひく生シ死シしうくはく衆シュウと職シヨクして生シを
とさうまていぢしむりこの衆シュウ人ニヒトちうりしあ
十億ヒヤク一億ヒヤクの念佛ニホフちうく生シをシいふ事コト
佛ブツの年トシ取リちうりしうていふ事コト
あきとあふひ年トシ取リしうりしうとく

はましちうくも信シ一川イツケンくもいふ事コト
一ヒトと佛ブツ説セツちうく佛ブツの言コトちうりし書シもあは
らんとちうりし信シとあはんと信シとあはんと
いふ事コトちうりし佛ブツの言コトちうりし事コトとあは
あはちうりしあはちうりしあはちうりしあはちうりしあ
いあちうりしあはちうりしあはちうりしあはちうりしあ
あはちうりしあはちうりしあはちうりしあはちうりしあ
あはちうりしあはちうりしあはちうりしあはちうりしあ
あはちうりしあはちうりしあはちうりしあはちうりしあ

一とてとわきゆくくはくくくく
 いざりりチシヤ智者チシヤ伏フてくくくくくくくくくく
 ちくふ井くくくくくくくくくくくくくくくく
 のみらくくくくくくくくくくくくくくくく
 ちわくくくくくくくくくくくくくくくく
 淨古チキの必チ伏フりくくくくくくくくくくくく
 識チキもくくくくくくくくくくくくくくくく
 又マのくくくくくくくくくくくくくくくく

てくくくくくくくくくくくくくくくく
 せりりくくくくくくくくくくくくくくくく
 性チキ生チキくくくくくくくくくくくくくくくく
 くくくくくくくくくくくくくくくくくく
 淨チキ和チキ尚チキのくくくくくくくくくくくくく
 親チキゆチキくくくくくくくくくくくくくくくく
 の中チキくくくくくくくくくくくくくくくく
 又マくくくくくくくくくくくくくくくく

一 諸より多く、阿彌陀佛の教り多て釋
迦佛の教り多て六方諸佛の教り説と證
誠證もこのふりなきなりといへり
又阿彌陀の諸佛より多て凡夫は生を
まの路よりまそとてとりて佛眼に
ての路よりまそとて信をたぬ
いふことふ心わくこといふ人々菩薩の
の路よりまそ又辟支佛より多ていふ者

淨の釋一 諸より多て是の淨てこのくわ
凡夫のいふまじい人よりたてけいといわ
らんまんとてまじいありはを御心
ゆかり作ちしむいふことしてたてま
ともも善淨和尙より多て生をたて
たりまらん事より多てい善導又凡夫
よわるとして阿彌陀佛の化身にて阿彌陀佛は
つてんひらく衆生より生をせよ人料なり

人としよきく^ニ菩薩^ニと云ふ中^ニは^ニ是^レを^レ知^ルべし
中^ニは^ニ佛^ノ説^クく^ニて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ
た^らむ^にあ^らず^しく^ニて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ
し^の佛^ノの^レ本^ノ教^ニに^レ信^トを^レた^らむ^にせ^しむ^にけ^り
て^レ作^ルし^の佛^ノの^レ説^クく^ニて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ
よ^うに^レ生^ルを^レく^ニて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ
り^の生^ルを^レく^ニて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ
ぬ^れし^の事^ニを^レく^ニて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ

こ^の一^の衆^ニに^レて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ
つ^りり^の事^ニを^レく^ニて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ
終^ニの^レ菩^ツ薩^ノ知^チ識^ヲを^レた^らむ^にせ^しむ^にけ^り
生^ルを^レく^ニて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ
そ^の衆^ニ中^ニに^レあ^らず^しく^ニて^レ
た^らむ^にせ^しむ^にけ^り
い^の佛^ノの^レ説^クく^ニて^レも^レあ^らず^しく^ニて^レ
を^レた^らむ^にせ^しむ^にけ^り

終してきり中しく一向に元又は善知識を
引いて終して佛と善知識のそのい
らそ善知識を多くいりていりけるに
際終正念のに失くはせしと人の家
際終正念よく念佛ゆり佛に之終
とのいりてい佛の教と信せと終
信よくい善知識よくい善知識よく
くたをけていりていりていりて

もしさうせしといはるの時にいりて
きり念佛ゆりて佛に來迎し終つて
念よくい佛とよくい佛とよくい佛と
きりい佛とよくい佛とよくい佛と
善知識をそのい佛の念佛といはる
あひりて際終正念といはる事
よくい佛とよくい佛とよくい佛と
よくい佛とよくい佛とよくい佛と

とあはせてはんとしつるをせりし
くひ祿うくくひ阿弥陀佛奉教あやも
懐疑の時あつとつるすま現々慈悲
とてそくくぬまけて正念し信ずり
しはんよとあり先してはあも中ま
流しくひるしそくくすまいしし
もく新し欠と事のはしし現也か徴に
念佛のうかひいことつるくしんふんとて

作も部よりつる一川のだからの
らりゆふいそとたししはは事とく
るけ給りりあまの海らりい念す
とてとくくしその性生はあまは
え廻向しゆりせむんしあま
り欠ととゆり遂をすしせり
とてあゆみ念しししせりし
しゆりあまの文はすけりし

そは作らばたのこあり先さるるまはさる
にわさる中そのゆいことさるるはんやう
先さるにりしと事日この世にけり
まゝいりしと世の世にゆいあはれ
いそゆいゆい事さるるけり
も事いこの世にゆいあはれ
まゝいゆいゆい事さるるけり
作事いゆいゆい事さるるけり

一佛^{ゴト}澤^ト古^トりありあはれせ作らん
いそあり作ゆいゆいゆい
まゝいゆいゆい事さるるけり
こゝろゆいゆい事さるるけり
いそありゆいゆい事さるるけり
念佛ありゆいゆい事さるるけり
てまゝいゆいゆい事さるるけり
りゆいゆいゆい事さるるけり

十惡の行りて罪はくはるる。悪人をも十惡
一破れ念佛よりなりて。性生とひんり
ゆて。罪はくはるる。悪人をも十惡
事。修ふ。女とひんりて。罪はく
ふ。修ふ。この。修ふ。罪はく
く。修ふ。女とひんりて。罪はく
と。修ふ。女とひんりて。罪はく
も。修ふ。女とひんりて。罪はく

女ひく。善根の。女ひく。善根の
く。修ふ。女とひんりて。罪はく
生の法文と信して一向專修の念佛より
て。修ふ。女とひんりて。罪はく
ゆて。修ふ。女とひんりて。罪はく
性生とひんりて。修ふ。女とひんりて。罪はく
の。修ふ。女とひんりて。修ふ。女とひんりて。罪はく
性生とひんりて。修ふ。女とひんりて。罪はく

何くいへば始りぬるのよしといはれしとてあはれ

一と申えそとて一と申一と申いと

禅持房よ志大とて以詞 才十九

阿彌陀佛の念をまふとて一と申一と申いと

わくわくとて一と申一と申いと

念十念じとて一と申一と申いと

一と申一と申いと一と申一と申いと

一と申一と申いと一と申一と申いと

一生の念をまふとて一と申一と申いと

又念佛とて一と申一と申いと

中とて一と申一と申いと

身とて一と申一と申いと

とて一と申一と申いと

とて一と申一と申いと

とて一と申一と申いと

愚者か愚者か一と申一と申いと

て中一邪見者ハ邪見をう中一四柱念
かくのこころを疑ひて其の縁縁縁を
半方衆生をていらく教とおおし
もう坊

又云念十念少くは生れしと念念念と
疎相し中とい信力う教を海を念念と
不捨と之を念十念と不念念念
信と念念念念念念念念念念念

いしやうしやう教と二形をけしやう

又云念と不念しやうの念念念念念
念念念の念念念念念念念念念念
佛念念念念の念念念念念念念念
念念念念念念念念念念念念念

十二問答 第二十

問曰八宗九宗れがうし津古宗と念念念自
念の條より餘宗の人れ念念念念念

作(一)

答系コタヘテの名ナと申マは申マは佛ブツの鏡カガミなり

佛ブツの心ココロと云イハふ所のマ徑マチ教ケツつツまマと云イハふ

義ギと云イハふ所のマ宗シユの名ナと判ハ断トする

也諸宗シヨウの習ナラフふマふマりマかカはハりマ海ウミ浄ジユウ也

系ケイは名ナと申マは申マは淨ジユウ土ツチの正マサ依ヨ持チりマ川カハと

てマはハ生ナマ後ノチ系ケイの義ギと云イハふマりマえエとト申マはハりマ

と先マ達タツは系ケイの名ナと云イハふマはハりマ也系ケイはハりマ

云々ト云々トのマ様サマの申マはハりマ也

問ト曰ク法ホウ花カ真シ言ゴン等トウとマ難ナ新シンとマ云イハふマ

と云イハふマの中ナカのマ心シンと云イハふマはハりマ

答コタ惠エ心シン先マ德トク一イツ代ダイ聖セイ教ケツのマ身ミ又マタとマ申マはハりマ

生ナマ集シユと云イハふマはハりマ中ナカにマ十ジュウ門モンと云イハふマ

と云イハふマはハりマ諸シヨ業ゴウ門モンにマ法ホウ花カ真シ言ゴン等トウ諸シヨ

大ダイ系ケイと云イハふマはハりマ諸シヨ新シンと云イハふマはハりマ言ゴン異イと云イハふマ

心シンのマ難ナ者シャと云イハふマはハりマ先マ德トクと云イハふマ

白くさうとれ也

問曰餘佛餘經ヨリつきて善根ゼンを修シユせん人ヒト縁助成エンシユしん事コト難ナシしと申マシふ事コト也
答曰心深ココロ隨ツひけの命イナヒ教ヲしんニ交ケル互ニ性シヨウ
生ナリの信シニとスるコトもハ他の善根タノゼンと縁助成エンシユ
せん事コトもハ難ナシしト申マシふ事コト也ハ此ココの性シヨウ
の助業トクゴフとシりテもハ他の善根タノゼンと隨ツて讀ミ口ク
せよと教ヲしテもハ難ナシしト申マシふ事コト也

問曰極樂ゴクラクと九クの差別サバツの事コトはハ縁助成エンシユ
しんニ事コトもハ難ナシしト申マシふ事コト也
答曰極樂ゴクラクの九クの深フカシ隨ツひ命イナヒ教ヲしんニ交ケル互ニ性シヨウ
の中ナカりテもハ釋尊シヤクソンの巧言ウツクシクニ也善人ゼンジン悪人アクジン
の所トコロにハしテもハ思業オヒゴフの多オホクくハ縁助成エンシユ
しんニ事コトもハ難ナシしト申マシふ事コト也
て善人ゼンジン上ウエにおケるコトもハ悪人アクジン下シモにおケるコトもハ
縁助成エンシユしんニ事コトもハ難ナシしト申マシふ事コト也

問曰持戒の行者の念佛の教遍はるる
人々破戒の人の念佛の教遍の如く
もむと生生のたらし位の淺深なるを
唯ふや

答曰く佛の置を置くの如く
この置あるよりしてこそや置るる
さうして事あるはやくさうじに
とていふと論とて末法の中に持戒

とあり破戒の如く名字の比丘なり
と傳教大師の末法燈明記よりて
いひしと持戒破戒の沙汰とて
いひしと父の如くはるる
とていふと名号と稱とて

問曰念佛の行者等日創の如く
とていふと人々を念ふとて
いふと作らるる

付しゆりて元智は其の佛といふ事一と
きくい給らん人となんといひ給ふ
佛の教もさうさる物さる衆人とも
と知れくといはけきくし料し
給ふ年報の名号とさる人さるちり
りしといふ心さる事一記あり十廿元
生のことさる中一有智元智有深元深
善人悪人持戒破戒男子女人之賢減盡

ののりれ百歳までのお生みさるりせれ
賢減盡の時、念佛者と當時は、房達と
くゆき、當時の、房達ハ佛のこと、一か
の時、人のい、のり、さる、十歳也、戒、定、慧、以、之
学、を、ら、ん、と、な、ん、と、い、ふ、を、お、し、て、よ、ん、と、さ
る、に、く、お、ま、さ、の、来、迎、と、あ、ら、う、る、を、さ、る、房、達、と
さ、り、さ、る、け、り、身、お、ま、さ、ら、が、し、と、い、ふ、事、は
操、を、い、ふ、一、と、い、ふ、業、一、お、ま、さ、ら、ぶ、事、を、

極樂の稱なりしとて凡そ念佛の中
にせんん事のもて其の生るる事なり
ていれんけしむるうゆり他力奉報も
いへ超世の悲報もいふ也
問曰至誠等の之心を具し之は後なる
うありいこく先修す

答云心と具する事あり刹の極なり
施りしけの奉報しけり名号と稱念せざる

らと来迎せんとおれしとて此の極なり
て外接せしむるせんせりせり
信して心し念し一は稱するにわらぬ
て一生生しるんて一宿後一合し
心しるすもくきめりしとて其の自無し心
と具する也又在家の如くもなりし極
に生るる事しとて念佛しとて極樂
ししるるに生るる事しとて念佛しとて

せざるいふんは具足とてははるるなり
ふりくものともは中なりはねむるは生を
はるる事少くわき

同日隆経の一会は百年の業よりしるる
中と平生は念佛の中は隆経は念に
念佛をいひてしるるなり

答ふん具足の念佛はあり事とされゆ
観經といふは具足者必生彼國とてなり必

文字のありゆり隆経の一会とあり事

は問答の問とい進行集は禪勝唐は問
とてなりわろ文は隆寛律師の問とてなり

をいひぬ

十二箇條の問答 第二十二

問ていふは念佛は生をいふとてなり
耳は目よりありはなりはるるゆ
とてなりはるるの五障は身もそとてなり

其の事ばかぬとて、
巻ていへども生死をいへりてあはれ
わをもとめしむる後、
生死を念せよとて、
わくもく、
行ていへりて、
其の正覚を
なり終ふゆへに、

らと、
て、
ふり、
り、
のせ、
こゝろ

之目^メわさくら物^{モノ}なりふゆ^ユこ^コ一^一智^チ恵^恵の
 ち^チあ^アわ^ワる^ル物^{モノ}も佛^{ハツ}を念^{ネン}せ^セる^ルが^ガ教^{キョウ}力^{リキ}より^{ヨリ}ふ^フる^ル也^也
 愚^ウ癡^チの^ノ名^ナも^モ悔^ケう^ウこ^コの^ノも^モ念^{ネン}佛^{ハツ}を^ヲし^シ教^{キョウ}力^{リキ}に^ニ
 業^{ギヤク}も^モる^ル也^也念^{ネン}佛^{ハツ}も^モる^ル物^{モノ}も^モの^ノ深^シ遠^{エン}光^{クワウ}明^{メイ}と^トあり^リ
 了^{リョウ}一^一了^{リョウ}一^一て^テも^モく^ク終^{シュウ}わ^ワぬ^ヌ愚^ウ癡^チ一^一巧^{キョウ}也^也
 て^テか^カら^ラく^クと^ト條^{ジョウ}終^{シュウ}一^一正^{テイ}念^{ネン}と^トえ^エて^テ生^{シヤウ}生^{シヤウ}も^モあ^アり^リ
 こ^コろ^ロ一^一つ^ツの^ノ身^ミの^ノ智^チ恵^恵あ^アり^リあ^アり^リ一^一つ^ツり^リて^テ生^{シヤウ}生^{シヤウ}
 の^ノ定^{テイ}不^フ定^{テイ}を^ヲい^イふ^フも^モ一^一じ^ジつ^ツと^トも^モ信^{シン}心^{シン}れ^レよ^ヨ

是^シ也^也

問^{モン}一^一い^イふ^フ世^セと^トい^イふ^フも^モ人^{ニン}の^ノ心^{シン}を^ヲ念^{ネン}ふ^フ念^{ネン}
 ず^ズの^ノ生^{シヤウ}生^{シヤウ}も^モや^ヤと^トい^イふ^フ事^ジも^モあ^アり^リか^カら^ラず^ズ
 だ^ダら^ラぬ^ヌゆ^ユへ^ヘの^ノあ^アり^リ一^一い^イふ^フ事^ジも^モ名^ナ同^{ドウ}也^也ゆ^ユへ^ヘも^モ
 今^{イマ}も^モあ^アり^リま^マの^ノ初^{シヨ}巻^{マク}也^也を^ヲあ^アり^リか^カら^ラず^ズ
 え^エん^ン念^{ネン}佛^{ハツ}い^イふ^フ佛^{ハツ}の^ノ心^{シン}も^モあ^アり^リま^マの^ノ心^{シン}
 念^{ネン}て^テい^イふ^フ淨^{ジヤウ}摩^マ尼^ニ珠^{シュ}と^トい^イふ^フも^モ念^{ネン}て^テい^イふ^フも^モ
 一^一投^{テウ}其^キの^ノ力^{リキ}を^ヲあ^アり^リか^カら^ラず^ズ一^一つ^ツり^リて^テあ^アり^リ

しん中一切の元丈のらせこりなるも
生ワラヒナの心ココロ一ヒトおまそ念佛せよゆちくさ
そりといはるるこりたは親シシ子シの縁ヤラツラを
たも人ヒトいほるし心ココロわきもたは縁ヤラツラ
愛コイ改カヘする縁ヤラツラの心ココロけねおる親シシ子シなる
こり念佛して生ワラヒナせん心ココロきて念佛
とマカりマカる元ヒト丈ツあるゆユ貪ヒシ瞋ヒシ癡ヒシ慢ヒシと
こりマカるも念佛生ワラヒナの縁ヤラツラとマカる

しつゝも生ワラヒナする也

問ていふは縁ヤラツラをマカる生ワラヒナせ念佛と
おりの人ヒトも生ワラヒナするゆユもマカる也
く念ネンする物モノも中ナカり生ワラヒナする物モノ

さるるのゆユもマカる也

答ていふは人の心ココロがマカる事コトは
其コノの邪ヤコウ正テイの心ココロがマカる事コトは
三サン心シンをマカる生ワラヒナする事コトは

と具せらうゆへ念佛を何と修行せえら
也云心と申す一に誠心二に深心三に
廻向發願心四に至誠心五に眞實心
也と釋するは外その行する心は
めは事ある心あて成する事外
人々みくの内とりらく穢土の
あをいふ一即淨土の縁なり
ねを縁ふ氣色とて田外その
わ

いひしゆ事あるとて律土
ひ淨土と申すは一に深心
六の佛の本願を信する心と曰ま
の力あるは一に佛の力あるは
縁ありといふ道理を信するは
いひしゆ事あるとて律土
んといふ事あるは一に眞實心
れといふ事あるは一に誠心

十也次一廻向發願心と云はつ後をる前如
新を廻向エテ修業ししむ人と縁ふ心
也何新のらうらんの心なりとて生れを
何と云ふはけりけり新力のいふく
たりしむとてしりてしりてくもつてい
しむる人信ていのらとてお佛ふ
らとてりてしる修て思ふを金剛也切
の如く修りてりてこの心とて信

して修治すても修りぬる十人今も
しむる百人百人今もしむる也何思ふ
心なりお佛を念ふも順次お生れを
受けを縁といひりてこの心おりり
事ハ何れも一人一人いふも
問ていも生れと縁をぬらわるとぬら
と云ふもその心勇猛も又念佛と云
しとていもいれと縁をぬらわるとぬら

のそく知識チシキのわひくワヒク生ナマをくク也
回マエてマエいマエくマエつマエのマエ一マエ念佛ニギフツのマエ新マエ者マエいマエるマエいマエくマエ
おのマエ作マエるマエや
答マエてマエいマエくマエらマエうマエ時マエにマエ世マエ間マエのマエ元マエ常マエかマエらマエうマエとマエ
おマエひマエてマエこマエのマエ世マエにマエいマエくマエらマエうマエ事マエをマエしマエわマエ
ふマエ時マエにマエ佛マエれマエ本マエ教マエをマエおマエひマエてマエあマエらマエうマエとマエいマエじマエうマエ
をマエ給マエてマエしマエせマエらマエうマエ時マエにマエ人マエ身マエたマエげマエさマエらマエうマエとマエ
まマエらマエうマエ思マエひマエくマエこマエのマエ心マエにマエいマエくマエらマエうマエとマエいマエじマエうマエ

のマエ一マエ六マエ道マエをマエらマエうマエらマエうマエ人マエ身マエとマエらマエうマエ事マエをマエ思マエひマエくマエ
天マエりマエ系マエとマエらマエうマエてマエ大マエ海マエのマエをマエらマエうマエ針マエをマエおマエひマエてマエあマエらマエうマエとマエいマエじマエうマエ
はマエらマエうマエ思マエひマエくマエこマエのマエ心マエにマエいマエくマエらマエうマエとマエいマエじマエうマエ
はマエ佛マエ法マエにマエあマエりマエこマエのマエ心マエにマエおマエ離マエれマエ業マエをマエらマエうマエとマエいマエじマエうマエ
はマエらマエうマエ思マエひマエくマエこマエのマエ心マエにマエいマエくマエらマエうマエとマエいマエじマエうマエ
道マエにマエあマエらマエぬマエまマエのマエ阿マエ傍マエ祇マエ劫マエをマエらマエうマエとマエいマエじマエうマエ
のマエ心マエをマエらマエうマエとマエいマエじマエうマエとマエいマエじマエうマエ
事マエをマエらマエうマエとマエいマエじマエうマエとマエいマエじマエうマエ

わたりて一の如く此の如く所記も人知月
しつゝも佛法を信し淨土を以て
まじりて信するもまじりてまじりて
あくも愚及の因とのまじりてまじりて
れを信しまじりて貴ひて佛をたのむ生
と心もまじりてまじりて省吾のまじりて
ゆせなり今生のまじりてわすれ生マシマシの期
いふまじりてまじりてまじりてまじりて

うの事を信りにまじりてまじりてまじりて
まじりて

問くいづくやの愚癡ウチの才ヒカリを教
えんも愚癡ウチのまじりてまじりて方法カタチをりて
いづくもまじりて信んまじりてまじりて
答ていづくもまじりてまじりてまじりて人の言
しつゝもまじりてまじりてまじりてまじりて
まじりてまじりてまじりて元常ゲンジョウはまじりてまじりて

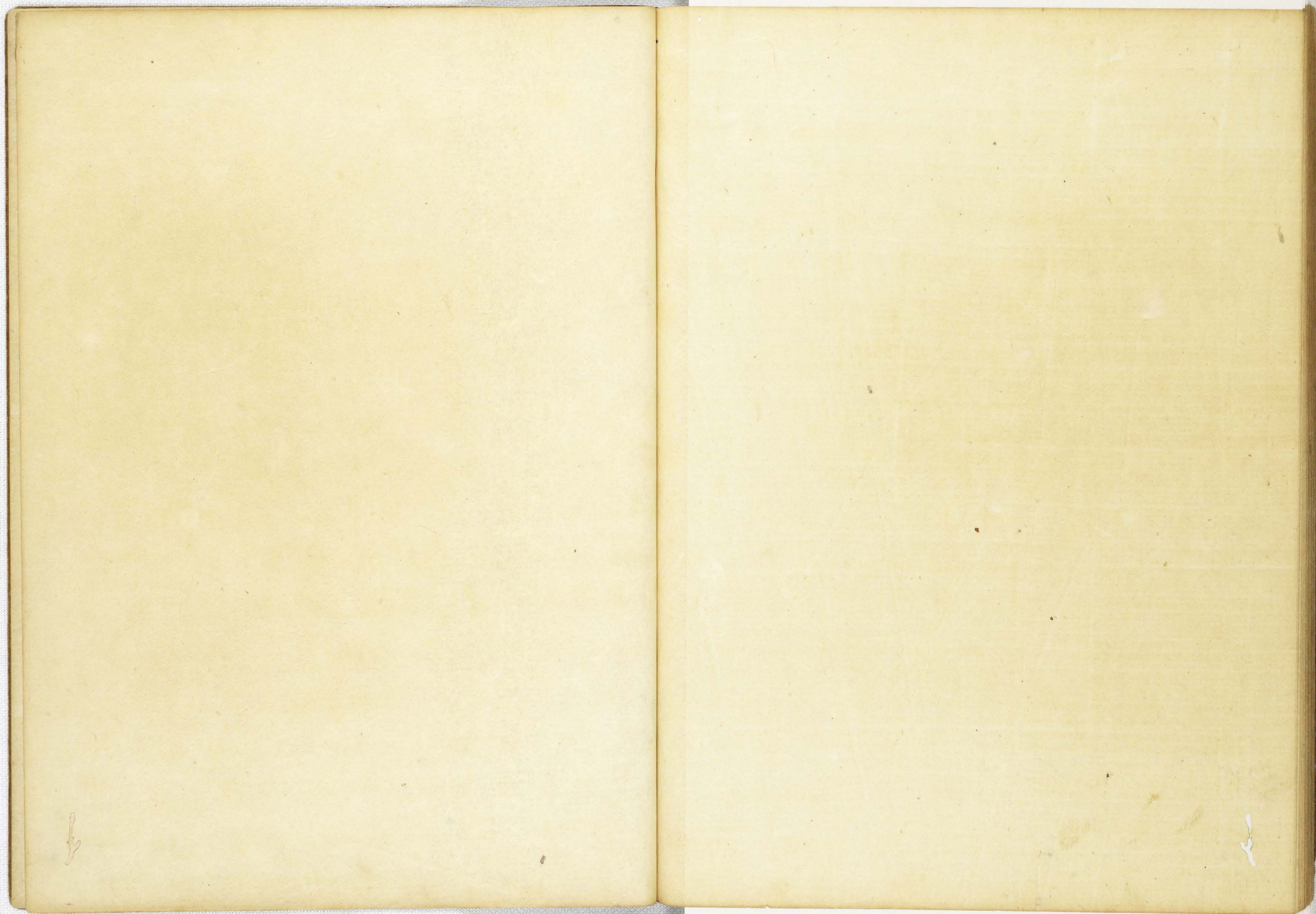
わびいふより念佛してまればよき事なり
けりいほ縁しよき事なりわいて心より
先きまよ人の心はけり念海にありてわ
しよ心のあはれしよ念海をいなり善縁
いちらるせとゆりけりこの方法いふ
たしん時しよいふしよ
問ていふ念佛のふれ餘善といふ生業
しよとて修しよとてしよ事ありし

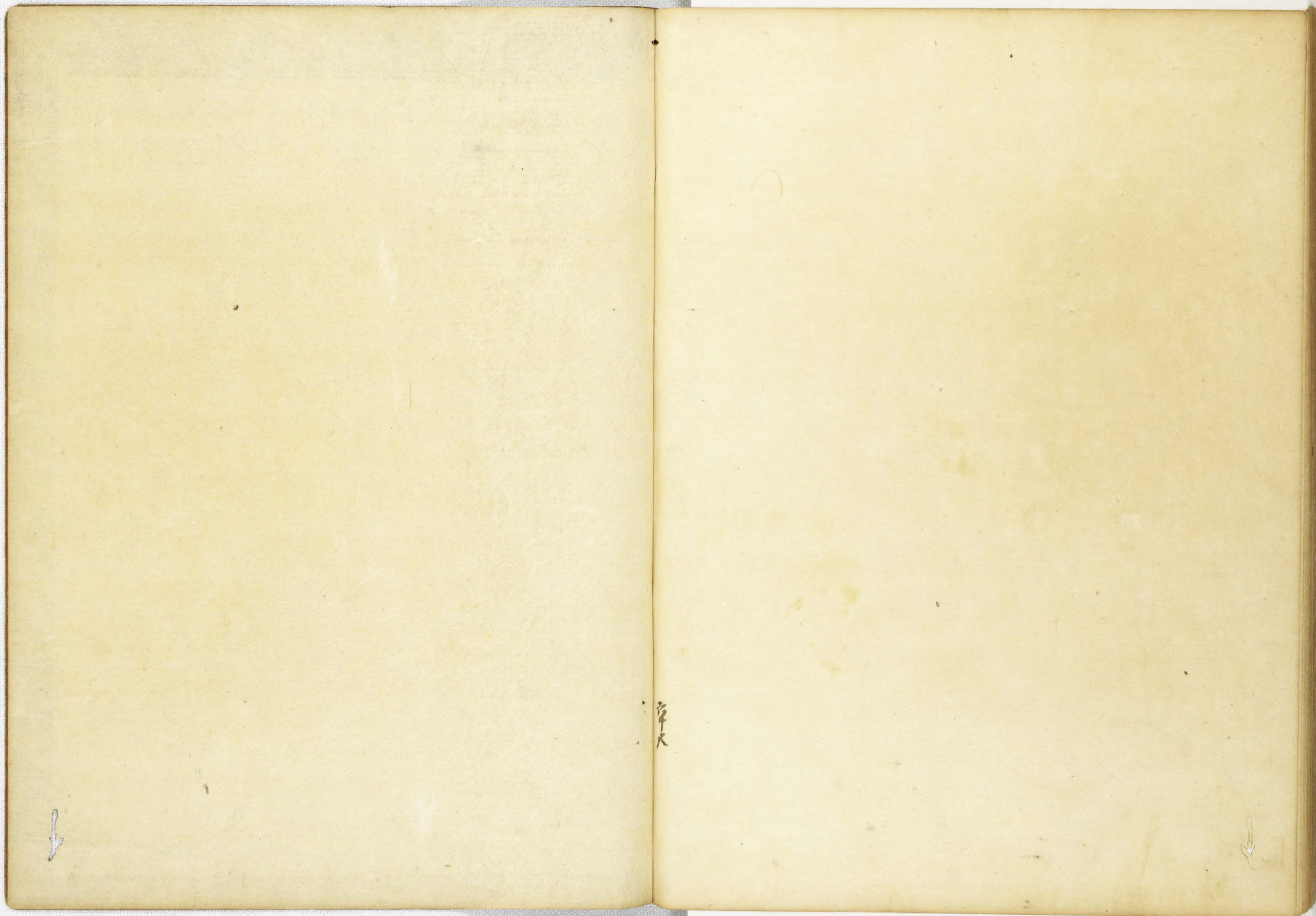
しよとてしよ

答ていふだよ人のみらとゆい主人
一人しよもあはれしよ眷属れゆりしよ
生の業の中しよ念佛しよ主人也餘善は眷属
志ありしよいふ餘善とてしよ事ありしよ
問ていふ今朝念人しよいふしよこの
みく念業とつる事しよとてしよ
答ていふしよけり念人しよとてしよ

よこのひて念佛の印をひきしにせ習ひさ
まなりわさるい隆正念もこト子
隆正のあひさりて外をこり十念と
まよひ一もいれりもさ失てしつそを
申がうしそりあかこ世間もあせり
道理たえわ申さくいせんあか合父母
わらまもま君もくらくしじてくひて思事
よこりて此書事よこのまんとたきり

思事もそそ給もぬ年親しこく人いまり
て善人といひるなりうりてい給んそそ
何れも一合十念あまじ之給ふもこくい
じや百念十念やとせりて心のあま
あのをけし人程いけし一もまを
つう方の無量のふえりんとすも此の
非橋といひるこりてあまひ七十八
と一期もそりてあまひの





↓

大

↓

